

キーワードは「前向き」と「やる気」

加州で働く日本人女性討論会



ANA 全日空
カリフォルニアで働く日本人女性のシンポジウム

アイデアと努力の結晶

成功するにはやる気とポジティブ志向が不可欠だ。――「カリフォルニアで働く日本人女性のシンポジウム」(日米協会主催、全日空株式会社、人材斡旋会社パソナ後援)が二十六日、トレンス市内のホテルで行われた。パネリストは、弁護士、ビジネスコンサルタントと専門職につきがらばっている女性四人。彼女たちの体験談を踏まえたアドバイスは、さあ、わたしもかんばらなくちゃと、そんな元気の湧いてくる討論会だった。

壇上でマイクに向かったキャリア・ビジネスを始めるなら「アイデア・アウマン」たちが何度も繰り返す「ア」。全財産わずか三千ドルで始めたのは「大切なのはやる気とポジティブ志向」。それと、自分でビジネス会社を興した有元美津世さん

は休みなしでネットワーク作りを駆け回ったという。「運がいいとよく言われるけれど、努力してやるんですよ。チャンスって頭の上じゃなくて目の前に落ちてくるから、それをつかもうとするにはガッツがいる。ちょっと根性もみたいですね」

お金も資格もなし、ユニークなアイデアだけを資本に会社を始めた青井ゆかりさんは、「ビジネスを始める時、自分が好きで、人の役に立てることって何かをまず考えた」と話す。その結果が、パートナー探し「フレンスネットワーク」とホームステイ先を紹介するなど総合的な留学斡旋会社だ。

アイデアがあればいいっても、やはり資格がものをいうのは。会計士の和泉三和さんはそのところを、「資格を取るの自分へのいい挑戦になる。ただ、体験を踏まえたアドバイスをするパネリスト四人

とつたらすべてバラ色、そんなふうにはいかない。公認会計士の場合、どこの事務所働いていたとか経験のつみ方でその人の価値が判断される。

「七転び八起き」をいい諺だと言ふ北川リサ美智子さんは、アメリカ生まれのバイリンガル弁護士。「一生懸命やればどんなビジネスでも成功する」とポジティブなメッセージを送る。

有元さんを除いては、みな主婦、母親業もこなす。「仕事と母親業との葛藤の連続。バランスを取ろうとしているが、事情によってはやはりどちらかに引張られてしまう」と言う和泉さんに北川さんもうなずく。働く母親について回る永遠の課題だ。

日本人の二主人が家のことを手伝ってくれないという典型的な不満に対して、青井さんは「子供ふたりかかえて離婚し、大変だったシングルマザー時代を経ているので、いてくれるだけでありがたい」。期待すると頭にくるから「しない」と、和泉さん。

女性は一般的に人生の長期的な計画を持つ人は少ないが、有元さんは、「自分の人生は自分の責任。十年、二十年後にどんなふうになつていいたいか長期的な展望を

立てることは大切」ときっぱり言うだけあって、まだ三十代だが年を当てにしない老後の計画をすでに持っているという。

自分が歳をとって振りかえった時、ベストをつくしたと思える人生を送りたい――そんな和泉さん言葉に共感を覚えた女性は多たようだ。約一時間にわたる討論会は、約三百人の女性たち、やる気の贈り物で鼓舞し閉じた。